経済闘争を階級闘争に！

プロレタリアートの階級闘争を組織することがわれわれの任務であるという点では、われわれはみな意見が一致している。だが、階級闘争とはなにか？　個々の工場、個々の職種の労働者が自分の一雇主もしくは自分の雇主たちと闘争をはじめるなら、それは階級闘争であろうか？　いや、それは階級闘争の弱い萌芽にすぎない。全国にわたる全労働者階級のすべての先進的な代表者が、単一の労働者階級であることを自覚し、個々の雇主にたいしてではなく、資本家**階級全体**にたいし、またこの階級を支持する政府にたいして、闘争を開始するときにはじめて、労働者の闘争は階級闘争になる。個々の労働者が全労働者階級の一員であることを自覚するとき、また、個々の雇主や個々の役人にたいするその日常の小さな闘争を、ブルジョアジー全体と政府全体とにたいする闘争と考えるようになるとき、そのときにはじめて彼の闘争は階級闘争となる。「いっさいの階級闘争は政治闘争である」〔『共産党宣言』第二巻、五〇〇ページ〕、――マルクスのこの有名な言葉を、雇主と労働者の闘争は**みなつねに**政治闘争**である**という意味に取るなら、それは誤りであろう。資本家にたいする労働者の闘争は、それが**階級**闘争となるのに**応じて**、必然的に政治闘争と**なる**という意味に、この言葉を理解しなければならない。社会民主主義派の任務は、労働者の組織化を手段とし、労働者のあいだでの宣伝と煽動を手段として、抑圧者にたいする彼らの自然発生的な闘争を全階級の闘争に、特定の政治的理想と社会主義的理想とのための特定の政**党**の闘争に、**転化させる**ことである。地方的な活動だけでは、こういう任務を達成することはできない。

第四巻　われわれの当面の任務　P230~231

1899 年の後半に執筆

コメント

労働者の闘争が階級闘争とためには、個々の労働者が全労働者階級の一員であることを自覚することが必要である。個々の雇主や個々の役人にたいするその日常の小さな闘争を、ブルジョアジー全体と政府全体とにたいする闘争と考えるようになるとき、そのときにはじめて彼の闘争は階級闘争となる。そして、それが階級闘争となるならば「いっさいの階級闘争は政治闘争」となる。そのためには自然発生的な闘争を全階級の闘争に、特定の政治（新しい人民の民主主義革命）的理想と社会主義的理想とのための闘争に転化させるために私たちは**学び、宣伝し、組織し**なければならない。

そしてなによりも、プロレタリアートの階級闘争を組織することがわれわれの任務であるという点でほんとうに意見が一致し、そのために党全体の努力の集中がなされることが、現在、特に求められている。